

1. シンポジウム企画委員会のシンポジウム(1963.10~2026.3)

開催年月	開催場所	通し番号	シンポジウム企画名
1963.10	小樽市	1	漁業資源研究の現状と問題点
		2	浅海増殖研究の現状と問題点
		3	魚肉冷凍中における肉質の変化
1964.04	東水大	4	水産脂質の代謝
		5	親魚の育成
10	水大校	6	海洋における光学的現象と漁業
		7	食品添加物と水産加工
		8	養魚施設
1965.04	東水大	9	漁業資源における再生産機構
		10	農業と水産業
10	東海大	11	音響利用漁業に関するシンポジウム
		12	水産動物筋肉におけるリン酸代謝に関する諸問題
		13	水産生物の育種に関するシンポジウム
1966.04	東水大	14	マグロ漁業に関するシンポジウム
		15	組織学的に見た水産食品
10	瀬戸内海	16	養殖と餌料に関するシンポジウム
	東水大	17	魚類の感覚とその水産への応用
		18	人工魚礁とその効果に関するシンポジウム
11	近畿大	19	魚類色素と応用上の諸問題
		20	魚類の細菌性疾患
		21	魚介類の鮮度判定法の展望と問題点
1968.04	日大農獸	22	海洋微生物
		23	水産増殖におけるビタミン利用
		24	タイ類の増養殖
		25	食品の香味
1969.04	東京家政	26	魚介類の低温保藏と微生物
		27	魚類の健康診断技法
10	東北大農	28	魚類の成長
		29	魚類の消化酵素
1970.04	東海区水	30	水産脂質の酸化
		31	水中動物の生理生態に関する無線測定法
10	三重大水	32	定置網漁業に関する研究の現状と問題点
		33	魚肉たん白質の研究・実験法
1971.04	東水大	34	水産物のエキス
		35	硬組織とその年令査定形質の形成機構
10	北大水	36	スケイトイタラの漁業とその資源
		37	冷凍すり身における魚肉筋タンパクの挙動
1972.04	日大農獸	38	火光利用の漁業
		39	水産食品の食中毒汚染
10	高知大文	40	魚類の栄養
		41	甲殻類の増養殖、とくに養成に関する諸問題
		42	水圈の富栄養化と水産増養殖
1973.04	東水大	43	のりの病気
		44	水産食品と水分
10	鹿大教養	45	公害問題と水産研究
		46	対馬暖流域の海洋構造とその漁業
		47	重要魚種の利用とその品質規定
1974.04	東水大	48	種苗生産における親魚と産卵に関する諸問題
		49	魚類寄生アニサキス幼虫
11	京都商工	50	魚類の種族判別への生化学的手法の応用
		51	稚魚の攝餌と発育
1975.04	東水大	52	海面埋立ての沿岸環境および漁業生産への影響
		53	南方カツオ漁業に関する諸問題
		54	海洋環境における微生物の生態
10	長大水	55	重金属・農薬汚染の水産への影響
		56	肉の特性から見た白身の魚と赤身の魚
		57	種苗放流効果と放流漁場の諸問題
1976.04	日大農獸	58	水産資源の有効利用について
		59	水産動物ホルモン
10	水大校	60	石油汚染とその水産生物への影響
		61	生態学における測定
1977.04	東水大	62	PCBと海洋生物
		63	イワシ・アジ・サバまき網漁業に関する諸問題
		64	水産動物肉のタンパク質
10	東北大農	65	浅海養殖場の自家汚染の問題とその対策—漁場老化の機構を中心として—
		66	増殖技術の科学的基礎及び理論
		67	魚類の脂質要求と餌料への油脂
1978.04	東水大	68	養魚における呼吸と循環の諸問題
		69	水産動物のカロチロイド
10	東海大海	70	水族の遺伝・育種の現状と将来
		71	海洋生化学資源の開発
1979.04	東水大	72	漁具の選択作用
		73	水産食品の鑑定
		74	水域の浄化に関する諸問題
10	北大水	75	浅海増養殖漁業生産の体系化—ホタテガイをモデルとして—
1980.04	日大農獸	76	淡水養魚における用水の有効利用
		77	水産加工食品の保全に関する諸問題
		78	赤潮の発生機構と対策
10	九大農	79	新しい生活環境づくり漁場・海中林
		80	多獲性赤身魚の有効利用
1981.04	東水大	81	かご漁業に関する諸問題
		82	魚類の化学感覚と摂餌促進物質
10	三重大水	83	活魚輸送の現状と諸問題
		84	海洋動物の非グリセリド脂質—スクアレン、グリセリルエーテル、ワックスを中心として—
1982.04	東水大	85	水産動物における成熟・産卵の制御
		86	有毒・有害プランクトンの作用と化学的研究の現状
		87	水圈の富栄養化と生物指標
10	広大生物	88	シオミズツボウムシの大量培養
		89	海藻の生化学と利用
1983.04	東水大	90	資源の解析・評価の方法の現状と問題点
		91	魚類の物質代謝
		92	漁業環境アセスメント
10	京大会館	93	資源生物としてのサメ・エイ類
		94	魚肉ねり製品に関する研究と技術
1984.04	日大農獸	95	水域別漁業環境問題とその対策
		96	人工魚礁の諸問題
		97	水産物と栄養
10	東北大農	98	魚類の栄養と餌料
		99	秋サケの資源と利用
1985.04	東水大	100	貝類毒化原因プランクトンの生物学と生態学
		101	水産動物の筋肉脂質
		102	環境汚染物質の沿岸生態系への影響
10	鹿大水	103	マダイの資源培養技術

1986.04	東水大	104 魚類の品質判定と貯蔵法の進歩 105 水産増殖と微生物 106 魚のスーパークリーニングーその理論と実際ー 107 漁業から見た閉鎖性海域の窒素・リン規制 108 解散付着生物と水産増殖 109 海産有用生理活性物質 110 資源評価のための数値解析 111 水産食品のテクスチャー 112 下水処理水の漁業環境への影響 113 水産動物の日周活動 114 フグ毒研究の最近の進歩 115 エビ・カニ類の種苗生産 116 魚介類のエキス成分 117 漁具に対する魚群行動の研究方法の現状と問題点 118 水産物のにおい 119 魚介の生息環境と着臭 120 水産増殖と染色体操作 121 水産動物の筋肉及び構成タンパク質の比較生化学 122 養殖魚の価格と品質の維持 123 海洋微生物の生産する生理活性物質の基礎と応用 124 テレメトリー利用による水棲動物の行動解析 125 魚肉の栄養成分とその利用 126 魚類の初期発育過程 127 貯蔵及び加工における魚肉タンパク質の変性と制御 128 海産魚の成熟・産卵リズム 129 魚類における死後硬直の生化学と応用上の諸問題 130 食用藻類の栽培技術と進歩 131 海洋生理活性物質研究の基盤技術 132 東南アジアにおける養殖の現状と将来展望 133 微細藻類の多目的利用の現状と将来展望 134 放流魚の健苗性とその育成技術 135 海洋生物カロテノイドの代謝と生物活性 136 水産脂質の特性と生物活性 137 水産資源解析の課題と展望－統計モデルと資源特性値の推定－ 138 赤潮藻の微生物学的防除 139 魚類の初期減耗研究の課題と方法 140 養魚餌料用代替タンパク質利用の現状と課題 141 水産資源の音響調査手法の現状と展望 142 魚介類に対する摂餌刺激物質 143 水産増殖における生態防護機構研究の現状と将来 144 有用海産魚介類の種苗生産技術の展開 145 わが国の漁業における混獲の実態とその対策 146 魚介類の鮮度判定と品質保持 147 ウナギの初期発生生活史と種苗清算の展望 148 魚類の行動生理学と漁獲技術 149 イルカ類の感覚と行動 150 種苗放流をめぐる諸問題 151 トラフグの漁業と資源管理 152 ヒラメの生物学－その基礎と応用－ 153 有用海藻類のバイオテクノロジー 154 沿岸生態系における漁業生産システムの解析 155 魚介類の細胞外マトリックス 156 水産動物の成長解析 157 砂浜海岸における仔稚魚の生物学 158 水棲動物の呼吸と環境 159 アオサ類の繁殖生態と環境修復への利用 160 マイワシの資源変動と生態変化 161 水産生物の形質発現と形質評価 162 資源・漁業の管理技術の現状と課題 163 磯焼け現象:その機構と漁場修復 164 イカ漁業の現状と将来展望 165 アマノリ研究の現状 166 漁業と資源の情報学 167 東シナ海及び黄海の生物資源:現状と有効利用の展望 168 魚介類筋肉タンパク質の構造と機能 169 水産物健康性機能とその利用 170 国連海洋法下における水産資源の直接推定法の意義と課題 171 魚類の配偶子形成における内分泌機構 172 漁具の選択特性の評価と資源管理 173 ホンダワラ類の繁殖・生態と藻場造成技術 174 魚類の自発摂餌－その基礎と応用－ 175 HACCPと水産物 176 マアナゴの資源生態と漁業 177 選択的漁獲技術開発のための漁獲過程に関する研究の課題と今後の展望 178 スズキをモデルとした水産資源生物の新展開 179 二酸化炭素の海洋隔離技術と生物への影響 180 魚肉のゲル形成における構成タンパク質の役割 181 オゴノリの研究の現状と新資源としての展望 182 漁船工学の現状と展望 183 魚類の免疫系 184 サバ型魚類の資源・増殖生物学 185 水産生物の性発現と行動生態 186 海藻食品の品質保持と加工・流通に関する課題 187 東シナ海におけるマアジの産卵場形成と沿岸への加入機構 188 養殖魚の健全性に及ぼす微量栄養素 189 地域特産資源としてのエビ・カニ類の多様性と重要性 190 ベントス研究の漁業生物学的研究 191 水産物の品質・鮮度とその高度保持機構 192 水産機能性脂質－給源・機能・利用 193 魚肉のゲル形成に伴う水の存在状態と物性の変化 194 レジームシフトと水産資源 195 ブリ－その資源・生産・消費 196 クラゲ類の大量発生とそれらを巡る生態学・生化学・利用学 197 近縁魚介藻類の種判別および漁獲地域判別技術 198 海洋深層水の特性と利用 199 水生動物の行動と漁具の運動解析におけるテレメトリー手法の現状と展開 200 音響資源調査の新技術－計量ソナー研究の現状と展望－ 201 モデル水産植物研究の現状と課題 202 微生物制御の最前線:食の安全から環境保全まで 203 森、里、川と沿岸域の生物生産 204 水團生物の色素－嗜好性と機能性－ 205 海洋資源生物学研究におけるネット採集具開発の現状と課題 206 水産動物の生態研究における安定同位体比分析の現状と展望 207 水産学と地域連携:道南における新海洋産業網の形成にむけて(公開シンポジウム) 208 磯焼けの科学と修復技術(公開シンポジウム) 209 アサリ資源の増殖を目指した流域圏の環境管理 210 沿岸域におけるアユの生理・生態特性の解明
---------	-----	--

2009.03	海洋大	211 海洋高次捕食者の保全と持続的利用 一トップダウンアプローチ:マグロ類、サメ類、イルカ類を例として一 212 漁業における灯光利用の現状と課題 一灯光で魚を誘い獲る技術・制度の再構築に向けて一 213 急潮の発生・伝播機構と定置網の被害防除 214 魚類の生殖機構—基礎と応用— 215 魚介類のアレルゲン研究の最前線 216 漁獲ストレス軽減によるマグロ高品質化 217 水産とIT～ITで水産を元気にする～
10 2010.03	北里大 日大	218 クロマグロ養殖業—技術開発と事業展開・展望一 219 魚介類生産の場としての浅海域の生態系サービス 220 水産資源の有効利用とゼロエミッション 221 カワウによる漁業被害防除の開発 222 日本産水産物の高付加価値化～サンマのグローバルマーケティングの取組みに向けて～ 223 アンチエイジングを目指した水産物の利用 224 微生物ゲノムが拓く水産の新たな潮流
9 2011.03	京大総合	225 水産健康機能成分の機能解析と利用技術開発—有効利用と次なる展開一 226 サケ輸出に求められる技術開発 227 21世紀のSmart Fisheryを目指して 228 水産育種の現状とゲノム情報利用の将来展望 229 漁獲物の蓄養による品質向上技術
2011.09	海洋大	230 飼育実験とバイオロギング研究—漁業資源の繁殖特性研究の新たな展開 228* 水産育種の現状とゲノム情報利用の将来展望 229* 漁獲物の蓄養による品質向上技術 231 フグ研究とトラフグ生産技術開発の最前線
2012.03	長崎大	232 沿岸環境の保全と修復における微生物学的側面 一有明海再生を目指して一 225* 水産物由来健康機能成分の機能解析と利用技術開発—有効利用と次なる展開一 227* 21世紀のSmart Fisheryを目指して 233 水産「プロバイオティクス」の創成 234 通電加熱による食品の加熱と殺菌技術の高度化
2012.09	水大校	230* 漁業資源の繁殖特性研究-飼育実験とバイオロギングによる新たな展開- 235 スケトウダラが産まれてから食卓にあがるまで:生態-社会系とその管理 236 沿岸資源の増殖・管理と分子生物学的手法によるモニタリング
2013.03	海洋大	237 メチル水銀のリスクと魚食のベネフィット 238 水産における光利用技術と基礎研究の動向
2013.09	三重大	239 真珠研究の最前線-真珠養殖技術の革新を目指して- 240 アオリイカの生物学と漁業技術の進歩
2014.03	北大水	241 スサビノリの持続的生産への挑戦 242 ハタ科魚類における繁殖の生理生態と種苗生産
2014.09	九大農	243 魚類の初期生活史研究の最前線 244 魚類における新しいタンパク質Calycin研究の新展開: α -酸性糖タンパク質, フグ毒結合タンパク質, ウナギ蛍光タンパク質
2015.03	海洋大	245 魚介類内在性プロテアーゼ—基礎から水産食品加工への応用まで— 246 魚類行動生理学の基礎と水産研究への応用
2015.09 2016.03	東北大農 海洋大	247 東日本大震災からの復興・再生に向けた新たな水産業の創成につながる新技術開発 248 魚類人工種苗の形態異常:これまでとこれから 249 地下水・湧水を介した陸-海のつながり:沿岸における水産資源の持続的利用と地域社会 250 三陸沿岸における水産業の復興と新たな水産人材育成—3大学連携三陸水産研究教育拠点形成事業の成果と今後の展望— 251 水産物に關わる冷凍研究の課題と展望
2016.09 2017.3	近大農 海洋大	252 新たな貝毒リスク管理措置の導入に向けた研究 253 森川里海のつながりを科学で説明できるか? 254 福島の淡水域における放射能汚染と魚類に及ぼす影響:これまでとこれから 255 水圏生物タンパク質科学の新展開
2018.03	海洋大	256 マアナゴ生息史研究の最前線と資源管理 257 環境変動下におけるサケの持続可能な資源管理(Sustainable management of chum salmon in changing environments)
2018.09 2019.03 2020.03 2021.03	広大 海洋大 海洋大*	258 魚類の性決定・性分化・性転換—これまでとこれから— 259 イカナゴを巡る諸問題と生物学 260 発展する水産・海洋ゲノムサイエンス 261 多元素同位体を用いた魚類の移動履歴推定—最新の技術と応用
2022.03	日大(オンライン)	262 今日の水産加工と魚肉タンパク質研究の課題 263 海藻とウニの生産に向けた新たな研究展開 264 水産物品質の非破壊計測技術
2022.09 2023.03 2024.09 2025.09 2026.03	宮崎大農 海洋大 京都大 北里大 海洋大	265 船底や漁網に使用する防汚剤汚染は終わったのか? 266 水産における昆虫の飼料利用の現在と未来 267 Blue Horizon: モーリシャス水産開発の水平線 268 見過されてきた極めて小さな珪藻の研究と応用 269 チ 270 魚とストレス—“FtoT”漁場から食卓まで、水産ストレス学の展望— 271 魚肉タンパク質の機能性 272 海底プラスチックごみの実態把握、劣化・微細化と回収可能性を探る 273 274 275 276 277 278 279 280 281

2. シンポジウム企画委員会のミニシンポジウム(1994.4～2026.3)

開催年月	開催場所	通し番号	ミニシンポジウム企画名
1994.04	東水大	1 アカイカ流し網代替漁法の展望 2 魚介類筋肉タンパク質の構造と機能の解析 3 貝毒対策の問題点 4 漁獲技術研究における国際協力の事例と将来展望 5 ガス置換包装における水産物の品質保持	
1994.10	三重大生	6 コンブ目植物の生態と増養殖技術 7 熊野灘漁業の現状と将来	
1995.04	東水大	8 国内産アワビトコブシの安全性 9 水産生物におけるD型アミノ酸の分析法、分布及び生理機能	
9 京大総合	京大総合	10 魚類の筋肉プロテアーゼ—基礎と応用— 11 海洋生物の回遊環境履歴解析 12 海洋生命科学における糖鎖生物学・工学	
1996.04	日大生資	13 魚類のゲノム解析とその必要性 14 相模湾における漁業と海域利用の将来展望 15 フグの毒性に関する緊急課題	
10 九大法文	九大法文	16 魚介類の培養栽培を活用した研究 17 魚類の聴覚特性—内耳と側線— 18 沿岸漁業における漁具の選択性Ⅰ—網漁具— 19 沿岸漁業における漁具の選択性Ⅱ—釣・陷阱漁具—	
1997.09 1998.04	広大総合 東水大	20 水産生物における内分泌擾乱物質 21 薬物速度論的解析における水産物医薬品の体内動態—投薬法の評価に関連して— 22 漁具の流体力学的側面Ⅰ—基礎的研究の現状と課題— 23 これからの栽培漁業研究—今、何が問題か?—	
1999.04 9	東水大 東北大農		

2000.04	東水大	24 漁具の流体力学的侧面Ⅱ－応用的研究－ 25 魚肉軟化とコラーゲン分解 26 超小型記録装置による魚類の遊泳行動研究－現状と展望－ 福井県大 27 水産ゼロエミッションの現状と課題 28 カタクチイワシ資源の今を考える 29 ワムシ大量培養法の進展とその現状 2001.04 2002.04	30 水生無脊椎動物をめぐる最近のトピックス 31 マングローブ沿岸生態系における地球温暖化ガス収支 32 フグの毒蓄積機能－フグはなぜ毒をもつのか－ 近大農 33 海洋動物の刺毒に関する最近の知見 34 頭足類学の胎動－分子解析から資源変動まで－ 35 干拓域の一次生産者－その生態と機能－ 2003.04 東水大 2004.04 鹿児島大 36 水棲動物のリボタンパク質・ホスオリバーゼA2・レブチン受容体 37 ヒラメ・カレイの表裏－異体類の左右性発現の機序とその異常について－ 2005.04 海洋大 2006.04 高知大朝倉 38 ゴーストフィッシング研究の現状と方向性 39 クロマグロの初期発育と種苗生産－現状と展望－ 40 魚類の発生工学の現状と展望 2007.04 海洋大 41 海藻類の単細胞化とその産業利用 42 水産分野における知的財産に関する問題(公開ミニシンポジウム) 2007.09 北大水 2008.04 東海大海 43 水産科学に携わる女性研究者の現状と展望 44 多獲性浮魚を対象とする漁業生産システムの再構築 45 热帯／亜熱帯産有毒魚類と底生性有毒微細藻に関する緊急の課題 46 開放的な砂浜海岸における水産生物と環境－吹上浜をモデルとした生態研究－ 47 次世代型魚類養殖給餌システム開発の現状と展望 2009.03 海洋大 48 水産実験所から始まる新しい水産研究と教育 49 ノリ病気研究の現状と展望 10 北里大 50 宮古湾をモデルとした資源の増殖と管理の試み～栽培漁業の基礎研究から効果の実証まで～ 51 板鰓類資源の保全と管理における現状と課題 52 アユ釣りの科学－研究者と釣り人がアユを語る－ 2010.03 日大 53 沿岸域の生物に関する予測評価 9 京大総合 54 深層水の新たなる展開 55 海洋高次捕食者と漁業との競合問題～食害対策における情報の共有化～ 56 瀬戸内海の栄養塩不足とその対策－河川水利用技術の開発－ 57 海洋動物の群れを考える－社会性・生態・遺伝子の視座から－ 58 沿岸域における有害有毒プランクトンの発生メカニズムと予知 2011.03 海洋大 2011.09 長崎大 2012.03 海洋大 2012.09 水大校 59 イカ類資源の世界的需供の変化と国内産業の展開 60 環東シナ海研究のこれまでこれから 国境を越えた海洋研究ネットワークの充実に向けて 61 水産資源管理に向けた魚類の行動研究 62 低魚粉飼料の栄養評価と飼育魚の健康評価 63 飼養業の未来－生産から利用・流通・市場まで－ 2013.03 海洋大 64 水圏におけるハイブリッドとクローン－生態系における役割と応用可能性－ 65 小型底びき網漁業における省エネ・省力化を目指した技術開発 2013.09 三重大 66 海女漁業の現状と将来展望 67 選択漁獲は古いのか？－Science論文の意義を探る 68 志摩半島周辺海域における二枚貝類養殖の現状と将来展望 2014.03 北大水 69 水産物の生産・加工・流通段階を保障するリスク管理研究の最新動向 70 データ高回収率を実現するバイオロギングシステムの構築～魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む～ 2014.09 九大農 71 頭足類学の創成－水産学における応用的基礎として－ 72 水産物におけるゲノム編集の現状と展望 73 クルマエビ栽培漁業の今後を考える 2015.03 海洋大 74 若手が拓く水産学研究：国際舞台で活躍する若手研究者たち 75 調査捕鯨と国際司法裁判所（ICJ）判決 2015.09 東北大農 77 フグ食の安全性確保－日本沿岸フグ類の分類と毒性の見直し 78 水産分野のキャリア教育－高校・大学・産業界における課題と期待－ 2016.03 海洋大 79 エリアケイハビリティーアプローチによる漁村開発 80 漁業資源の今とこれから 81 水産資源の持続的利用と認証制度－東京オリンピックで日本の水産物を提供できるのか？－ 82 ICTの水産業への導入：最前線と今後の課題 83 水産分野におけるタンパク質研究の現状と展望 84 日本の野生メダカの保全と新たな課題－個体群減少と遺伝的搅乱－ 2017.03 海洋大 85 水産教育の現場から次世代育成を考える 86 水産資源データ解析と予測モデル 87 サバ～資源・養殖・加工・ブランド化をシームレスに繋ぐ若手研究者の集い～ 88 寄生虫症を宿主の視点から考える 89 実験・実習再考－水産化学・食品系で扱うべき内容 2018.03 海洋大 90 三陸サケ回帰率向上のための放流技術の開発 91 タイラギ稚苗生産技術の最新動向と養殖産業の創出に向けて 2018.09 広大 92 選抜育種の積極的な導入に向けて－「経験則」から「データによる予測」へ 93 干潟漁場の評価のための生物多様性の研究 94 持続可能な漁業産業を支援するためのICTの活用 2019.03 海洋大 95 同一魚種サクラマスとヤマメ（ <i>Oncorhynchus masou masou</i> ）の資源管理を包括的に考える 2019.09 福井県大 96 水産物の呈味特性研究の新展開 97 魚類における不妊化研究の最前線 2020.03 海洋大* 98 魚介類タンパク質・酵素の産業利用とさらなる理解に向けて 99 データ不足下での資源評価・管理手法 2021.09 北大水* 2022.03 日大（オンライン） 2022.09 宮崎大農 100 水産・海洋系高等学校の水産科教員不足をめぐる現状、問題点と解決策 101 タコを考える～その生物像から工学応用まで～ 102 フグ毒と麻痺性貝毒の产生と動態に関する研究の現状と展望 103 地域共創による水産業の活性化 104 アオリイカ漁業の現状と将来－漁業者との協働研究－ 2023.03 海洋大 105 知床周辺海域のホットスポット形成：海洋環境から高次捕食者まで 2023.09 東北大農 106 東北地方太平洋岸におけるアオリイカ研究：近年の研究成果と安定的利用に向けた課題 2024.03 海洋大 107 野生水産生物における集団ゲノミクス 108 水圏動物の「賢さ」から水産学への展開を探る 109 水圏生物の行動解析～水産分野における難題へのチャレンジ～ 2024.09 京都大 110 我が国における自主的資源管理措置－実践・検証、および今後の展開－ 2025.03 北里大 111 内水面漁協が元気になるためには 2025.09 広島大 112 マナマコの持続的利用に向けた最新研究 2026.03 海洋大 113 IO導入に向けた現場の取り組みと研究 114 内水面における漁協解散後の遊漁、漁場、水産資源の管理方法を考える 115 魚群行動の理解と制御 116 117 118 119 120 121 122 123
---------	-----	---	--

*:「みなし開催」となったシンポジウムの開催による